

情報発信等戦略の期間

令和3年度～令和7年度まで

情報発信等戦略

① 情報発信の内容

東日本大震災から11年が経過したものの、依然として根強い風評被害が残る中、ALPS処理水の処分方針決定により、新たな風評が発生し、農林水産物の価格や観光誘客の回復の遅れなどの更なる影響を懸念する声が高まっている。このため、下記のような新たな取組を始め、風評払拭に向けた取組の更なる強化を図る。

・檜葉町の山と海、自然に触れ楽しめる体験型のコンテンツ（以下「アウトドアコンテンツ」という。）を軸として檜葉の魅力を感じてもらい、個人の生の声をSNSで発信してもらう。行政からの風評払拭とは別の切り口の個人の声を発信してもらうことで風評の払拭につなげていく。

・檜葉町と広野町の両町にまたがる「Jヴィレッジ」は、全国的にも知られ、浜通りのシンボルのひとつでもあることから、これを活用し、両町の連携、さらに必要に応じ国、県、県内他市等と連携をすることによって、国内及び海外に「Jヴィレッジのある町 広野&檜葉」を発信し、両町の新たなイメージの浸透を図る。

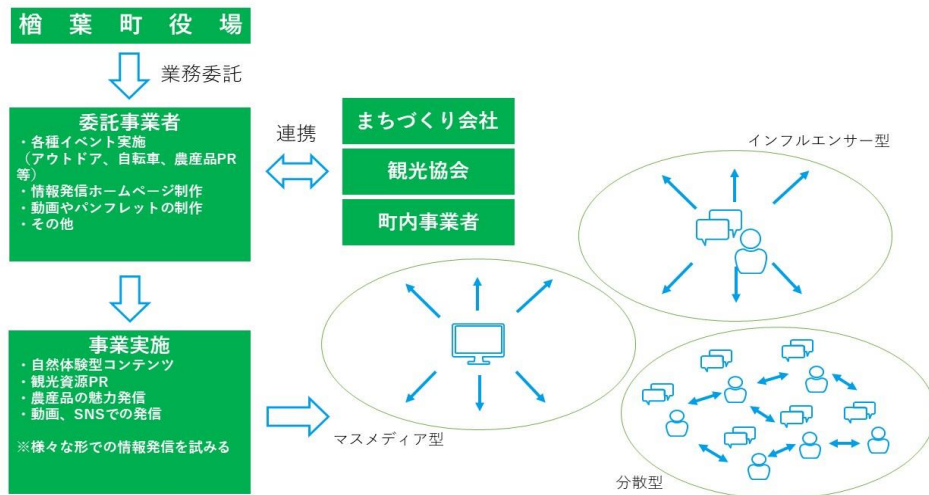
・震災以降檜葉町ではさつまいもを町の主要な農作物と位置づけ甘藷栽培に力を入れている。さつまいもをはじめとした魅力ある檜葉町の農産品を知ってもらうための様々な機会を設ける。

・檜葉町はサッカーJ3のスポーツチームであるいわきFCのホームタウンとなっている。いわきFCのアウェー戦で檜葉町の観光PRを実施する。

・アウトドア以外にも、既存の地域資源、観光資源を活用した様々な体験型の取組を整備し体験してもらう。

② 檜葉町の情報発信体制

本交付金を活用した情報発信体制は以下の図のとおり。



③ 情報発信等の戦略目標

自然や食べ物、健康に対する放射線の正確な情報を伝えるとともに、風評払拭・リスクコミュニケーション強化戦力に基づき、「知ってもらう、食べてもらう、来てもらう」ための様々な取組を実施する。

具体的には、

知ってもらう：各種メディアを活用した情報発信

食べてもらう：檜葉町の農産品を楽しむ機会を設ける

来てもらう：来てもらうための魅力的なコンテンツづくりやイベントの実施

上記について、ポジティブなイメージを連鎖的に拡散させるため

メディアによる発信、インフルエンサーによる発信、SNSでの草の根の分散型の発信など様々な形での情報発信を試みる。

④ 全体工程表

実施事業については次年度に評価、分析を行いフィードバックする。

